

【学校の沿革】

本校は、昭和 22 年5月に「千葉市立第七中学校」として開校して以来、78 年目を迎える千葉市で最も歴史ある学校の一つです。校名は、地域でもある花園町の名をとって昭和 26 年に花園中学校に改称されました。花園町は「美しい花園のような町」になるようにとの思いから命名されました。校章には、菊の花が記されており、「菊の花は日本を代表する花」であることから、日本を代表する学校であれとの思いが込められているそうです。また、その歴史を学舎という視点から見ると、開校当時は、戦火を免れた工業学校跡の二棟を仮校舎として、本校の歴史がスタートしたことがわかります。昭和 30 年代に二度の火災を乗り越え、26 年間にわたり、初代校舎とともに築き上げてきた第1期。続いて昭和 48 年に鉄筋二階建ての校舎が落成し、以降 37 年間の長きにわたり本校の伝統をより深長させてきた第2期。そしてその歴史は、平成 22 年9月に完成した、現在の近代的校舎による第3期へと受け継がれています。その間、のべ 39 人のPTA会長さんをはじめとする保護者や地域の方々の献身的な御協力、御支援に支えられ、28 人の学校長のもと、これまで勤務された多くの教職員の熱い想いにより、現在のような立派な校風と伝統を誇る花園中学校が築きあげられてきました。生徒指標「自主」「協力」「実行」を掲げ、脈々と伝統は引き継がれています。

【学校長より】

学校教育目標「自ら学び 心豊かな 活力あふれる生徒の育成」

◇学校教育目標を『あい』というキーワードで示します。

〇〇あい

「学び(あい)」→「自ら学び」につながります。

「認め(あい)」→「心豊かな」につながります。

学びあい、認め合い、磨きあいにより

「磨き(あい)」→「活力あふれる」につながります。

一人一人が「輝く」生徒になる

根っことなる4つの「あい」

一つ目の「あい」→「挨拶」・・・「挨拶」は、気持ちを伝えあうコミュニケーションの第一歩。「挨拶」を通して、学級、学年、学校全体へと、コミュニケーションの輪が広がっていくことを期待しています。→学校教育目標の土台となる部分です。

二つ目の「あい」→「アイディア」・・・「アイディア」は、「考え」という言葉に置き換えることができます。自ら学び、考え、表現することを通して、確かな学力が身に付いていくことを期待しています。→「自ら学び」につながります。

三つ目の「あい」→「愛情」・・・「愛情」とは、相手を思う温かな気持ちと言えます。相手を思いやり、互いを認め合い、協力し合い、高め合える、心豊かな人間関係づくりを期待しています。→「心豊かな」につながります。

四つ目の「あい」→英語で「私」を意味する「I」・・・「私」、つまり自分自身を大切にしてほしいと思っています。心と体の調子に気を配り、生き生きと活力あふれる学校生活を送ることを期待しています。→「活力あふれる」につながります。

花園中学校生徒によって発見されて 70 年以上の年月が経つ大賀ハスは、今や千葉市の都市アイデンティティー(重要な地域資源)の一つとなっています。毎年大輪の花を咲かせる大賀ハスのように、生徒の力を伸ばし成長させられるよう、花園中学校の教職員一同、力を尽くしていきたいと考えております。令和 7 年度は、歴史と伝統を大切にしながらも創意工夫し、未来を拓くことができる生徒の育成を目指した学校経営を行い、伝統ある花園中学校の歴史に、新たな1ページを刻んでいきたいと思ひます。

今後とも、保護者の皆様、地域の皆様方には、本校教育活動に一層の御理解と御支援を賜りますようお願いいたします。

千葉市立花園中学校長 岡田 哲